

ています。マイワシの分布範囲は資源状態によって大きく変化し、資源状態が良い時には広く、悪い時には狭くなります（図2）。そこで、資源状態が良い時と悪い時で漁獲量がどれほど違うのかを見てみました。

ロ 漁獲量

マイワシは、1979年頃から急激に漁獲量が増加し、1988年には全国で448万トンと大豊漁でした。京都府でも、1989年には定置網漁業だけで約3万トンの漁獲量がありましたが、1980年代後半をピークに、1990年代にはいと漁獲量は急激に減少し、2002年にはわずか約6トンでした。なお、全国でも約5万トンにしかありませんでした（図3）。

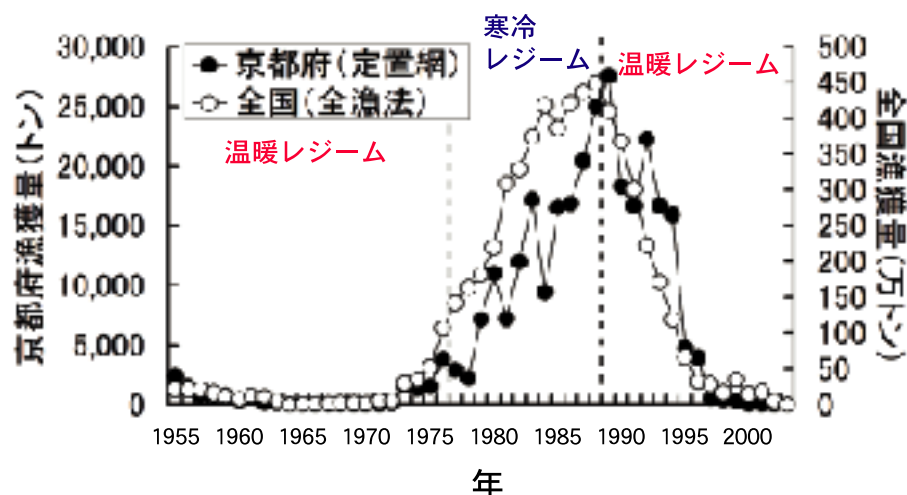


図3 京都府及び全国のマイワシ漁獲量の推移

ハ レジームシフトとマイワシ資源の関係

マイワシの漁獲変動の大きな要因はレジームシフトに関わる海洋環境の変化だとする考え方があります。

マイワシの漁獲量が増えたのは図3で示したとおり寒冷レジームの期間にあたります。この期間に東シナ海から日本海にかけての対馬暖流域において、マイワシとそれを取り巻く環境にどういったことが起こったのかは、「東シナ海・日本海のいわし類の現在」（独立行政法人水産総合研究センター 2004）にわかりやすくまとめられていますが、それをさらに要約すると以下ようになります。

- ①1970年代の終わり頃から寒冷レジームになり冬の季節風が強く吹いて、海水温が下がった。
- ②季節風が強いことと、海水温が下がったことで、表層付近の水と海の深いところにある栄養豊かな水とが混じり合いやすくなった。
- ③栄養豊かな水が供給されたことでマイワシの餌となる植物プランクトンが大幅に増加した。